

## 《参考 14》 メタデータスキーマレジストリ

アーカイブがより広く活用されるためには、関連するアーカイブ同士が相互連携し、横断的に利用されることが重要です。そのためには、アーカイブに蓄積されているメタデータの相互運用性・流通性を高めることが重要となります。しかしながら、アーカイブはそれぞれの目的、規模、蓄積手法などが異なり、そのメタデータもアーカイブごとで多種多様となります。

多種多様なメタデータが利用されている状況のなかで、メタデータを共有化し相互運用性・流通性を向上させるためには、各々のアーカイブのメタデータが、基準となるメタデータスキーマの規則に準じて記述されている必要があります。また、公開されているメタデータを利用しようとする場合、そのデータの記述に用いられたメタデータスキーマが分からないと、正しく扱うことはできません。

このような様々なアーカイブのメタデータスキーマを蓄積・公開し、メタデータスキーマの相互参照や再利用を支援するシステムがメタデータスキーマレジストリです。

メタデータスキーマレジストリを活用することで、例えばメタデータスキーマを設計する際にはメタデータスキーマレジストリに登録されている類似の目的を持つメタデータスキーマを参考にすることで、相互運用性の高いスキーマを容易に作成することができます。

国内においては、メタデータスキーマレジストリとして一般社団法人メタデータ基盤協議会によって運営されているMetaBridge<sup>125</sup>というシステムがあります。MetaBridgeは、メタデータスキーマの蓄積・公開に加え、メタデータスキーマの作成支援機能も備えた、世界でも数少ないレジストリです。



図 -1 MetaBridge トップ画面

125 詳細は、<http://www.metabridge.jp/infolib/metabridge/menu/> を参照

MetaBridge ではメタデータスキーマを語彙と記述規則に分けて管理しています。

- ・ 語彙・・・メタデータの記述に用いる項目や分類を定義したものです。
- ・ 記述規則・・・メタデータを記述する際の項目ごとの記述内容や、値制約、出現回数などの規則を定義したものです。

MetaBridge を利用することで次のようなことができます

① 様々なメタデータスキーマを閲覧できます

MetaBridge は登録された様々な種類のメタデータスキーマを公開しており、利用者は標準的なものや類似するアーカイブなどの様々なメタデータスキーマを自由に閲覧することができます。

② 登録されているメタデータスキーマを参考にメタデータスキーマを作成できます

アーカイブ設計者が新たにアーカイブを作成しようとするとき、MetaBridge に登録されているメタデータスキーマを参考にして、新たなメタデータスキーマを作成することができます。

③ 作成したメタデータスキーマを広く公開できます

MetaBridge はインターネットから誰でもアクセスすることができます。自身が作成したメタデータスキーマを広く公開することができ、これにより他のアーカイブとの相互連携の可能性が高まります。

④ 表計算ソフトなどで作成したメタデータをオープンデータに変換できます

MetaBridge では、利用者は表計算ソフトなどで作成したメタデータを、自身で登録したメタデータスキーマや標準的なメタデータスキーマなどにもとづいて、オープンデータ (RDF 形式) に変換することができます。

⑤ 登録したメタデータスキーマの変遷を管理できます

メタデータスキーマは必要に応じて語彙の追加や、定義の細部を修正される場合があります。MetaBridge では、登録したメタデータスキーマを変更した場合、その変遷を記録します。利用者はこれを例えばバージョンの違いによる問題が発生した時の対処などに活用することができます。